

「臨床外科」刷新の辞

「臨床外科」が戦後の荒廃のさなかに発足してから、今日にいたるまですでに 17 年の歳月を経過した。最近の外科学の進歩は生理学・生化学・薬理学・病理学などの基礎医学の進展に支えられて瞠目に値する飛躍ぶりである。しかも明日の外科学は、ただに基礎医学の成果を摂取するに止まらず、工学・理学関係の隣接領域にもわたってその成果を積極的に採り入れてゆくことになる。人工臓器の進歩発達には、そのような領域における成果がものをいうことであろう。

如上の事実は、外科学の進展が隣接科学や基礎医学の進歩の土台の上に構築されている面のあることを認識させるものであるが、そのことをもって外科医が隣接科学や基礎医学の分野に身を挺する要請にはならない。外科は臨床の学問体系であり、あくまでも臨床の場においてその成果が問われなければならないからである。外科医に要請されることは、今日の診療の進歩にふさわしい知識を各方面から摂取してそれを臨床の場に生かしてゆくことにほかならない。今日と明日の外科医に要請される開眼は、そのような問題意識を持った学問的情熱である。

本誌はそのような観点から大幅な刷新を期することになった。外科医が臨床の場において成果をあげてゆくことができる豊かな問題意識を提供し、外科臨床の探求において具体的な実効をあげてゆく道標たり得ることを期した。本誌が紙幅を旧に倍し、かつ用紙を特アートに改善したのは、外科学界が当面している諸々の課題にこたえ、その解明と示唆に役立ち、懸案解決の先達となつてゆくために必要な措置であることを信じたからである。

雑誌の雑誌たるゆえんは、新しい研究の成果と焦点となる話題がタイムリに提供されることにある。本誌は時宜に適した企画によつて、その要請にこたえてゆこうとする。

雑誌の雑誌たるゆえんは、また、その内容が多彩で多岐にわたり、多くの読者に親炙されることにある。本誌はその意味において収載内容に多面的な変化を盛つて、その要請にこたえてゆこうとする。固定欄においても外科の焦点、論説、手術の実際、検査と診断、講義、グラフ、症例、保険の話、質疑応答、海外医学・文献紹介等のバラエティを予定している。しかも、いたずらに網羅的の弊におちいることを避けて、学界に裨益し臨床の実をあげてゆくべき焦点を明確にすることを期する。時に一誌をあげての特集を企図することもあるが、それは平常号における雑誌の本質的性格を破壊しない配慮のもとに規制される。

外科学は無影燈の下、冷厳なメスの牙えによつて開拓されてきた。しかし 20 世紀は新しい人間学が待望される世紀である。外科医は自然科学の人間類型に加えて新しい人間性に覚醒することが憧憬される。外科医の対象とするものは病気ではなく病者である。そのことは外科医という主体にはねかえつて主体の人間の充実の問題にたちかえる。本誌はその面でも豊かな彩りを盛りたい。

以上の刷新を断行するまでには、数次にわたる熟議を重ね、本号を期して実現の緒につくことになった。御支援を御願ひする次第である。

昭和 38 年 1 月

「臨床外科」編集同人